

介護福祉士実務者研修シラバス（1）

科目		時間数	授業方式	課題単元名		目標	授業構成
区分	科目名						
A	A-1 人間の尊厳と自立	5	通信	A-1-1	人間の尊厳と自立	尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護など、介護の基本的な理念を学ぶ。	尊厳、自立、自律、ノーマライゼーション、インクルージョン
	A-2 社会の理解I	5	通信	A-2-1	介護保険制度	介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割などを学ぶ。	高齢化、高齢社会におけるジェンダー、寝たきり問題、老老介護、介護保険法、2006年法改正、2012年法改正
	A-3 社会の理解II	30	通信	A-3-1	生活と福祉	家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることを学ぶ。	労働、家族、地域社会における個人の生活構造、社会規範の変化、児童福祉法、社会福祉法、母子福祉法、憲法第25条、生活保護法、知的障害者福祉法、老人福祉法
				A-3-2	社会保険制度	社会保障制度の発達、体系、財源などについての基本的知識を学ぶ。	社会福祉制度の体系、社会保険と民間保険の違い、社会扶助原則、年金保険
A-3-3				障害者自立支援制度	障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者の負担、専門職の役割などを学ぶ。	障害者自立支援法、障害者の権利に関する条約、障害者基本法改正、地域生活支援事業、障害福祉計画、自律支援給付、障害福祉サービス利用の流れ、自立支援給付と利用者負担、ライフサイクルからみた支援組織、障害者政策委員会	
A-3-4	介護実践に関する諸制度	成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービスなど、介護実践に関連する制度を学ぶ。	健康日本21、伝染病予防法、性病予防法、後天性免疫不全症候群の予防に関する法律、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、結核対策の諸制度、難病対策の諸制度、日常生活自立支援事業、成年後見制度、虐待防止制度、消費者保護法、個人情報保護に関する制度、医療と介護に関する諸制度、医療行為の定義、介護福祉士と医療行為				
B	B-1 介護の基本I	10	通信	B-1-1	介護福祉士制度	介護福祉士制度の沿革、法の定義、業務範囲、義務などを学ぶ。	介護の歴史、介護の定義、医療と介護の連携強化、医学モデルから生活モデルへ、根拠のある介護へ、介護福祉士の制度化、専門職団体・学術団体としての役割、社会福祉士及び介護福祉士法、
				B-1-2	尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開	個別ケア、ICF（国際生活機能分類）、リハビリテーションなどの考え方をふまえ、尊厳の保持、自立に向けた介護の展開プロセスを学ぶ。	自立支援、自己選択・自己決定、個別ケア、リハビリテーション、リハビリテーションの動向、尊厳と介護の関係、QOL、
				B-1-3	介護福祉士の倫理	介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法・制度などを理解し、倫理遵守について学ぶ。	日本介護福祉士会倫理綱領、利用者の人権と介護、倫理判断の視点、倫理に添った介護の実践、尊厳ある介護の実践、個別性を重視した自律に向けた支援、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、生命倫理、高い倫理性
	B-2 介護の基本II	20	通信	B-2-1	介護を必要とする人の生活の理解と支援	介護を必要とする高齢者や障害者などの生活を理解し、ニーズや支援課題を把握することを学ぶ。	生活習慣、生活障害と認知症、生活課題、利用者主体、人権・健康・安全な生活環境、快適で健康的な居住環境（WHO定義）、居住空間を妨げる要因、くつろぎの生活環境

			B-2-2	介護実践における連携	関連する職種や関係機関の役割、連携方法などチームアプローチについて学ぶ。	多職種連携、他職種の機能と役割の理解、他職種との連携の場面、地域連携、地域包括支援センター
			B-2-3	介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護リスクの分析と事故防止、感染管理など、介護における安全確保について学ぶ。	リスクマネジメント、事故予防、安全対策、転倒予防、感染対策の3原則、感染対策とリスクマネジメント、感染症発生時の対応フロー
			B-2-4	介護福祉士の安全	介護福祉士の健康管理や労働安全対策について学ぶ。	介護職の健康管理、こころの健康、ストレス、ケアハラスメント、ストレスマネジメント、施設運営上のリスクマネジメント、燃え尽き症候群、メンタルヘルズ指針、腰痛予防、感染症予防、身体的疲労の管理、介護労働者の雇用管理の改善等に関する法律、安全衛生管理体制

介護福祉士実務者研修シラバス（2）

科目		時間数	授業方式	課題単元名		目標	授業構成
区分	科目名						
C	C-1 コミュニケーション技術	20	通信	C-1-1	介護におけるコミュニケーション技術	利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を理解する。	コミュニケーション、パーソンセンタードケア、きつとウッドのコミュニケーション技術、二者間コミュニケーション過程、ジョハリの窓、円環的因果律、利用者・家族との信頼関係形成、関心を向ける領域、関心を示す5つの基本動作、人を構成する5つの側面、生活支援とコミュニケーション、ソーシャルワーク、グループワークのコミュニケーション
				C-1-2	利用者・家族とのコミュニケーション	ニーズや意欲を引き出すコミュニケーション、利用者の感覚・運動・認知などの機能に応じたコミュニケーションを活用し、援助関係を構築することを学ぶ。	傾聴、よいコミュニケーション、共鳴、共感、同一視、利用者の感情表現の特性、老後の肯定的な側面、共感の技法、観察の視点、環境整備、共感に裏付けられた納得と同意、明確化の技法、焦点化の技法、直面化の技法、要約の技法、質問によるコミュニケーション、質問の種類、利用者・家族への指導、身近な相談相手の活用、相談援助の基本原則、意欲を引き出す技法、意向を調整する技法
				C-1-3	介護のチーム・コミュニケーション	状況や目的に応じた記録、報告、会議などでの情報の共有化を学ぶ。	ヒューマンサービス組織におけるチーム、チームの発展過程、チームワークの阻害要因、フリーライダー
	C-2 生活支援技術I	20	通信	C-2-1	生活支援とICF	生活支援におけるICFの意義と枠組みを学ぶ。	生活、生活支援、障害老人の日常生活自立度判定基準、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準ライフコース、ライフサイクル、介護予防、介護予防の背景、介護予防システム、地域支援事業の内容、廃用症候群、廃用症候群の症状、生活における介護予防、レクリエーション、ICF、ICFの活用、ICFと介護過程、ストレングスモデル
				C-2-2	ボディメカニクスの活用	ボディメカニクスを活用した介護の原則を学ぶ。	ボディメカニクスの基本原則、ボディメカニクスの視点、力のモーメントとてこの原理、重心と支持基底面積、摩擦力、慣性力、姿勢、動作、人間の基本姿勢
				C-2-3	介護技術の基本	介護技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔など）を学ぶ。	生活支援における介護技術、介護技術のポイント、介護技術実践におけるチェックポイント、身じたく、口腔ケア、衣服着用、整容、移動、車いす、杖歩行、食事、誤嚥・窒息、脱水症状、入浴・清潔、排せつ、睡眠、ターミナルケア
				C-2-4	介護福祉用具の活用と環境整備	居住環境の整備、福祉用具の活用などによる支援を学ぶ。	福祉用具の定義、歴史と制度、選定ポイント、居住環境整備、バリアフリーとユニバーサルデザイン、介護保険における住宅改修、施設における居住環境整備
C-3 生活支援技術II	30	通信	C-3-1	利用者の状況に合わせた介護福祉用具の活用と環境整備	利用者の状態に合わせ、介護福祉用具等の活用、環境整備の支援を行うことを学ぶ。	基本確認、利用者の状況に合わせた介護福祉用具の活用と環境整備について事例検討（1）（2）（3）、フィードバック	

介護福祉士実務者研修シラバス（3）

科目		時間数	授業方式	課題単元名		目標	授業構成
区分	科目名						
D	D-1 介護過程I	20	通信	D-1-1	介護過程の基礎知識	介護過程の目的、意義、展開などを学ぶ。	介護過程、介護過程の実際
				D-1-2	介護過程の展開	介護過程をふまえつつ、目標に向けて計画的に介護を行うことを学ぶ。	情報収集とアセスメント、アセスメントの視点、計画立案、目標設定、介護実践、目標確認・判断、記録、介護計画の評価、評価のポイント
				D-1-3	介護過程とチームアプローチ	チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を学ぶ。	ケアマネジメント、ケアマネジメントの歴史、ケアマネジメントの対象、社会資源とケアマネジメント、ケアプランの立案、個別援助計画、介護過程と職種間の連携、エコマップ
	D-2 介護過程II	25	通信	D-2-1	介護過程の展開の実際	情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しについて学ぶ。	介護過程の展開についての事例検討（1）（2）（3）
D-3 介護過程III演習	45	通学	D-3-1	介護過程III演習	介護提供、安全確保、事故防止、家族連携・支援、他職種、他機関との連携、こころとからだの状況に応じた介護知識・技術を総合的に活用することを学ぶ。	介護過程の基本確認、介護過程の展開の実践についての事例検討（1）（2）（3）、フィードバック	
E	E-1 発達と老化の理解I	10	通信	E-1-1	老化とこころ	老化に伴うこころの変化と日常生活への影響を学ぶ。	老化の原則、老化に伴うこころの変化とその影響、老化に伴うこころの疾病、老化に伴うこころの障害、高齢者の知能
				E-1-2	老化とからだ	老化に伴うからだの変化と日常生活への影響を学ぶ。	老化に伴う体の変化とその影響、老化に伴うからだの疾病、老化に伴うからだの障害
	E-2 発達と老化の理解II	20	通信	E-2-1	人間の成長・発達	発達の定義、発達段階、発達課題について学ぶ。	発達とは、発達段階と発達課題、フロイトの心理的・性的発達の理論、ピアジェの認知発達理論、エリクソンのライフサイクル理論、生涯発達過程に対する3つの影響
				E-2-2	老年期の発達・成熟と心理	老年期の発達課題、こころの課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつなど）と支援上の留意点について学ぶ。	高齢社会の定義、高齢者、老年期における性格の変化、人格タイプと高齢期への適応、補償プロセス、高齢期のセクシュアリティ、ハーヴェイガーストの発達課題、ラスレットのサードエイジ、プロダクティブエイジング、高齢者の3つの危機、定年退職後の男性のタイプ、ビッグファイブ（主観的幸福感）、ロートンのQOL、サクセスフルエイジング、PGCモラールスケール
				E-2-3	高齢者に多い症状・疾病と留意点	高齢者に多い症状・疾病などと支援の留意点について学ぶ。	基本確認、高齢者に多い症状・疾病について事例検討（1）（2）（3）、フィードバック
F	F-1 認知症の理解I	10	通信	F-1-1	認知症ケアの理念	認知症ケアへの取組の経過をふまえ、今日的な認知症ケアの理念を学ぶ。	認知症とは、認知症の症状、認知症ケアの歴史、地域住民による認知症の理解

			F-1-2	認知症による生活障害、心理・行動の特徴	認知症による生活上の障害、心理・行動を学ぶ。	BPSD、認知症による障害、認知症の類似症状
			F-1-3	認知症の人とのかかわり・支援の基本	認知症の人やその家族との関わり方を学ぶ。	認知症ケア、感覚を刺激するかかわり、認知症の進行に沿うかかわり、認知症症状の観察、生活スペースの区分、環境の調整、日常生活場面の支援
F-2 認知症の理解II	20	通信	F-2-1	医学的側面から見た認知症の理解	認知症の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療などについて医学的知識を学ぶ。	医学的側面から見た認知症の理解、認知症とは何か、心理検査
			F-2-2	認知症の人や家族への支援の実際	認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境などの状況に合わせ、地域サポート体制を活用した支援の実際を学ぶ。	基本確認、認知症の人・その家族への支援の事例検討（1）（2）（3）、フィードバック

介護福祉士実務者研修シラバス（４）

科目		時間数	授業方式	課題単元名		目標	授業構成
区分	科目名						
G	G-1 障害の理解I	10	通信	G-1-1	障害者福祉の理念	障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史をふまえ、今日的な障害者福祉の理念を学ぶ。	障害の概念と定義、ICIDH、国内法における生涯の定義、国連の宣言における人権思想、ノーマライゼーション、自立生活（IL）運動、インクルージョン
				G-1-2	障害による生活障害、心理・行動の特徴	障害（身体・知的・精神・発達障害・難病など）による生活上の問題、心理・行動を学ぶ。	障害がおよぼす心理的影響、障害の受容、価値転換論、ステージ理論、上田敏理論、精神分析
				G-1-3	障害児者や家族へのかかわり・支援の基本	障害児者やその家族に対する関わり方や支援を学ぶ。	家族支援の視点、家族の障害受容、ライフステージと家族、障害児家族のレスパイト、セルフヘルプグループ
	G-2 障害の理解II	20	通信	G-2-1	医学的側面から見た障害の理解	障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化などについて医学的知識を学ぶ。	障害者に対する介護の基本的視点、エンパワメント、アドボカシー、視覚障害、聴覚障害、言語障害、肢体不自由、麻痺、内部障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病、高次脳機能障害
				G-2-2	障害児者への支援の実際	障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境など、状況に合わせ、地域サポート体制を活用した支援の実際を学ぶ。	地域におけるサポート体制、障害児者への支援の実際、補装具・日常生活用具による日常生活支援、居住支援、就労支援、経済基盤の保障
	H	H-1 こころとからだのしくみI	20	通信	H-1-1	介護に関係したからだのしくみの基礎的な理解	介護に関連した、からだのしくみの基礎を学ぶ。
H-2 こころとからだのしくみII		60	通信	H-2-1	人体の構造と機能	生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクスなど、からだのしくみについて学ぶ。	消化器系（嚥下から消化へ）、消化器系（消化から排泄へ）、ブリストル便形状スケール、循環器系、DNA・遺伝ホメオスタシス、睡眠、死、こころの変化、からだの変化、骨格系、筋肉、神経系、脳
				H-2-2	人間の心理	人間の基本的欲求、学習・記憶などこころのしくみを学ぶ。	からだこころの関係、ゲシュタルト心理学、行動主義心理学、新行動主義、精神分析学、防衛機制、神経細胞と神経伝達物質、マズローの欲求の階層説、欲求不満・適応・適応機制、ストレス、意識、心理学における学習、観察学習、レスポナント条件付け・条件反射実験、強化、消去、オペラント条件付け、感情、感情障害、認知的徒弟制、動機、記憶、情報処理モデル、知能測定法、調査方法論
				H-2-3	からだこころのしくみをふまえた支援の実際	からだのしくみ、こころのしくみをふまえた支援の実際を学ぶ。	基本確認、からだこころのしくみについての事例検討（１）（２）（３）、フィードバック

介護福祉士実務者研修シラバス（５）

科目		時間数	授業方式	課題单元名		目標	授業構成
区分	科目名						
I	I-1 医療的ケア	50	通信	I-1-1	医療的ケアの基礎知識	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を学ぶ。	医療的ケアの定義、看護職による在宅での医療的ケアの提供、介護職による施設での医療的ケアの提供
				I-1-2	感染予防	介護職が行うべき感染予防を学ぶ。	標準予防策の遵守、滅菌と消毒、薬剤耐性菌、手洗い
				I-1-3	喀たん吸引と経管栄養	喀痰吸引と経管栄養の基本を学ぶ。	喀たん吸引が必要な場面、呼吸のメカニズム、たん排出のメカニズム、非侵襲的人工呼吸療法、侵襲的人工呼吸療法、人工呼吸器装着時の生活上の留意点、人工呼吸器装着における緊急時対応、人工呼吸器使用中のトラブル、たんの吸引を行う前の観察、喀たん吸引をする前に対応しておくべきケア、吸引器、口腔内吸引、上気道と下気道による区分、たんの吸引における注意事項、薬液浸漬法、喀たん吸引後の片づけ、たんの吸引に関する記録と報告、人工的な栄養補給が必要となる場面、経管栄養の種類、経鼻経管、胃ろう・腸ろう、経管栄養剤の種類、経管栄養のリスク、経管栄養の用具、胃ろうの日常ケア、経管栄養の中止、緊急時の対応、経管栄養の記録と報告
	I-2 医療的ケア演習	12	通学	I-2-1	医療的ケア演習	医療的ケアの実技を学ぶ。	たんの吸引の基礎確認、実施手順、口腔内吸引（演習1）（演習2）、鼻腔内吸引（演習1）（演習2）（演習3）、気管カニューレ内部の吸引（演習1）（演習2）、救急蘇生法